

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 8月

「この日を神と共に」「千年期」「神の律法を知らない人のための調査審判」「冷やし中華風サラダ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「千年期」

4

聖書の教え

朝のマナ

「この日を神と共に」

7

This Day with God

現代の真理

「神の律法を知らない人のための調査審判」 39

清めの特別な働き

力を得るための食事

「冷やし中華風サラダ」

46

お話コーナー

「キリストの教え(II)」

48

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2017年7月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sermon view on pages 9, 41, 48

再臨信徒であったエノク

エノクの心は永遠の宝に注がれていた。彼は天の都をみつめていた。彼は、シオンのなかで栄光に輝く王、キリストを見たのであった。彼の思想も感情も会話もすべて天に關することであった。彼の周囲の罪惡が大きければ大きいほど、神の家を慕う気持ちは熱烈であった。彼は地上におりながら、信仰によって、すでに光の王国に住んでいた。

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう」（マタイ 5:8）。エノクは、三百年の間、天と調和するために心が清くなることを求めていた。彼は三世の間神と歩いた。彼は、日々密接な結合を熱望した。交わりはいよいよ深まっていき、ついに神は、彼をみもとにお受けになった。彼は、永遠の世界の門口に立っていた。彼と祝福にみちた国との距離はわずか一歩であった。そして、門はあけられ、地上で長く続いた彼の神との歩みは続けられた。彼は、聖都の門を通過していった。彼は、人間のなかから、そこにはいる最初の人となった。……

主は、エノクの昇天を通して、重大な教訓を与えようとなされた。……神はエノクの例をあげて、「ご自身を求めらる者に報いて下さる」かたであることを明言される（ヘブル 11:6）。……彼の昇天は……将来に関する彼の預言の真実性の証拠であった。

信仰によって、エノクは、「死を見ないように天に移された。……彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである」（ヘブル 11:5）。罪惡のために破滅にひんした世界のまっただなかで、エノクは神と密接に交わる生活を送っていたので、死の力は、彼を屈服することができなかった。この預言者の清い品性は、キリスト再臨の時に、「地からあがなわれ」る人々が到達しなければならない清い状態をあらわしている（黙示録 14:3）。そのときには、洪水前の世界のように、罪惡が世にはびこる。……しかし、神の民は、エノクのように心の純潔と神のみこころとの一致を求めて、ついにキリストのみかたちを反映するに至るのである。彼らは、エノクのように、主の再臨と罪に対して下される刑罰について世界に警告を発し、その清い行状と模範とによって、不信心なものの罪を誹責する。世界が氷によって滅ぼされる前にエノクが天に移されたように、生きている義人は、地が火によって滅ぼされる前に天にあげられる（人類のあけぼの上巻 84－86）。

だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう（黙示録 3:3）。

24章 千年期

千年期は、死んだ義人が復活させられるイエスの再臨の時に始まります(テサロニケ第一 4:13-16)。生きている悪人はそのときに滅ぼされます(テサロニケ第二 1:7, 8; イザヤ 11:4; エレミヤ 25:31-33)。義人は天へ連れていかれます(ヨハネ 14:1-3)。そしてサタンはつながれます。

千年期の間、地は人の住民のいない廃墟になります。そして、サタンはそのために千年間、環境という鎖によって「つながれる」ことになるのです(イザヤ 24:22; エレミヤ 4:23-26; 黙示録 20:2, 3)。

聖徒たちは、天でキリストと共に、千年間支配する間、悪人たちのさばきを行います(コリント第一 6: 2, 3; 黙示録 20:4)。

地上の荒廃

「ここで、贖罪の日の最後の厳粛な務めに予表されていた事件が起こる。至聖所における務めが完了して、イスラエルの罪が、罪祭の血によって聖所から除かれたときに、アザゼルの山羊が生きたまま主の前に連れて来られた。そして、大祭司は、会衆の前で、『イスラエルの人々のもろもろの悪と、もろもろのところが、すなわち、彼らのもろもろの罪をその上に告白し』た(レビ記 16:21)。それと同様に、天の聖所における贖罪の働きが完了したときに、神と天使たちと贖われた人々の群れとの前で、神の民の罪が、サタンの上におかれるのである。彼が神の民に犯させたすべての罪悪の責任が、彼にあることが宣言される。アザゼルの山羊が、人里離れた地に送り出されたように、サタンは、住む者もない荒涼たる荒野と化した地上に追放される」(各時代の争闘下巻 441)。

「地上は荒れはてて荒野のように見えた。地震で倒れた都市や村々の廃墟がうず高くなっていた。山々がうつり去った跡には、大きな穴が口を開いていた。海からうちよせられたり、地が裂けてころがり出たごつごつの岩石が、あちらにもこちらにもころがっていた。大きな木が根こそぎになって、地面に吹き倒されていた。ここがサタンと悪天使たちにとって、千年間の住居になるのである。ここ

に彼は閉じこめられて、その荒れはてた地上をさまよい歩き、神の律法に対する自分の反逆の結果を見せられる。彼は、自ら招いたわざわいの結果を、千年の間、存分に味わうことができる。この地上から外へは出られないサタンは、他世界を飛びまわって、墮落したことの無いその住民を誘惑したり、妨害したりすることは許されない。この期間中、サタンは極度に苦痛をおぼえる。墮落して以来、彼の悪の能力はたえず働いていた。しかし今、彼はその能力をとりあげられ、放置されるままに、墮落以来自分の果たしてきた役割について回顧し、また恐怖すべき自分の将来を、恐れとおののきをもって待ちうけねばならない。その恐るべき将来において、彼は自分がこれまでやってきたすべての悪について、さばきをうけ、また彼が人に犯させたすべての罪について処罰をうけねばならないのである」(初代文集 467, 468)。

悪人の審判

「第一と第二の復活の間の千年間に、悪人の審判が行なわれる。使徒パウロは、この審判を、再臨に続いて起こる事件として指し示す。……パウロが、『聖徒は世をさばく』と予見したのは、この時のことを指しているのである(コリント第一 6:2)。彼らはキリストと共に悪人を審き、その行為を法規の書すなわち聖書と照らし合わせ、それぞれのなしたわざに従って、すべての者に判決を下す。その時、悪人は、それぞれのわざに応じて、受けねばならない苦しみが定められる。そして、それが、死の書の彼らの名のところに記録される」(各時代の大争闘下巻 444)。

千年期の終わりに、わたしたちの主は贖われた者と随行する天使を従えて再び地上に戻られます。死んだ悪人たちはよみがえらされ、墓に下ったときと同じ反逆の精神をもって起き上がります。新エルサレムが天から下り、そして贖われた者と天使たちと共にキリストが聖都に入られます(ゼカリヤ 14:4)。サタンは自分の牢獄から解放され、なおもこの世の正当な所有者であることを主張しながら、自分に従う者たちに都を占領しようと提案します。そのとき神のみ許からその敵に上に火が下り、その火は彼らを燃やし尽くし、根も枝も残しません(黙示録 21:1-5; 20:5, 7-9, 14; マラキ 4:1; ペテロ第二 3:7-10; エゼキエル 28:18, 19)。

第二の復活

「千年期の終わりに、キリストは再び地上に帰ってこられる。主は贖われた大群衆を伴い、天使たちを従えてこられる。彼は、恐るべき威光をもっておくだりになる時、死んだ悪人たちに、さばきの執行を受けるためによみがえるよう命じられる。彼らは、海の砂のように、無数の大群となって現われる。第一の復活の時によみがえらせられた人たちと比較して、なんという相違であろう。義人たちは朽ちることのない若さと美しさを着せられていた。ところがこの悪人たちは病氣と死の跡を帯びている。……

キリストはオリブ山におくだりになる。そこはキリストが復活後昇天された場所であり、また天使たちが、主の再臨について約束をくりかえしたところである。預言者はこう言っている。『あなたがたの神、主はこられる、もろもろの聖者と共にこられる。』『その日には彼の足が、東の方エルサレムの前にあるオリブ山の上に立つ。そしてオリブ山は、非常に広い一つの谷によって、東から西に二つに裂け、』『主は全地の王となられる。その日には、主ひとり、その名一つのみとなる』（ゼカリヤ書 14:5,4,9）。

新エルサレムが、目くらむばかりに光り輝いて天からくだり、きよめられて受け入れ準備の整った場所に落ち着くと、キリストは、ご自分の民や天使たちとともに、その聖なる都にお入りになる」（各時代の争闘下巻 446, 447）。

「サタンは部下の天使たちと相談し、またこれらの王たちや征服者たちや有力者たちと相談する。それからサタンは、自分の巨大な軍勢をみわたして、都の中の一団は少数で弱い勢力だから、攻め上って都を占領し、住民を追い出して、その富と栄光を手に入れることができると告げる。サタンは人々をだますことに成功する。彼らはすぐに戦闘準備をはじめ」（初代文集 471）。

悪人の滅亡

「そのときに、悪人たちは、彼らは何を失ったかに気づいた。そして、火が神から彼らの上へと下って彼らを焼きつくした。これが審判の執行であった。そのとき悪人たちは、聖徒たちがイエスとともに千年の間に彼らに定めたところに従って罰せられた」（初代文集 123）。

『サタンは根であって、彼の子供たちは枝である。彼らは、今、根も枝も焼き尽くされた。彼らは永遠に死んだのである。彼らは復活することはない。そして、神は、清い宇宙を持たれるのである』と天使は言った」（同上 474）。

この日を神と共に

This Day with God



8月

8月1日

神性にあずかる者

「わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。わざわいなるかな、彼らはおのれを見て、賢しとし、みずから顧みて、さとしとする。」(イザヤ 5:20, 21)

主はすべての人が自分の義務の持ち場に立ち、まさにご自分がなすようにと任命した働きを果たすことを要求しておられる。すべての行動の前にへりくだった真剣な祈りがあるようにしなさい。真理は燃える灯火として前進しなければならぬ。真理の保管者である人々は、はっきりと目覚めた人として行動しなければならない。……

キリストは神の律法を犯しているすべての人に災いを宣告しておられる。このお方はご自分の時代の立法者たちに災いを宣告なさった。なぜなら、彼らは正義と判断を求めて自分たちに頼る人々を苦しめるために自分たちの力を行使したからである。たとえ名目的には教会員だとしても、エホバの律法を無視することを軽いこととみなし、善と悪の間に何の区別もしない人々に、罪の恐ろしい結果はことごとく臨むようになる。

主がわたしに表された描写の中で、わたしは自分自身の願望にしたがい、真理を誤り伝えて、自分の兄弟たちを圧迫し、彼らの前に困難をおく人々を示された。品性はいま発達しつつあり、人々は自分の立場を、ある人は主イエス・キリストの側に、またある人はサタンとその使たちの側に置きつつある。主はご自分の律法に対して忠実で従順なすべての人々に、自らを敵の側に置いている人々とのあらゆるつながりから出てきなさいと召しておられる。彼らの名前の反対側には、「テケルは、あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた」と記されている(ダニエル 5:27)。……

一見道徳的であるが、クリスチャンではない人々が大勢いる。彼らは何が真のクリスチャンであるかという自分の判断において欺かれている。彼らは金の価値を台無しにする合金を持っており、神の是認の印章が押されることがない。彼らは不純で価値のない金属として拒まれるのである。

わたしたちは自分たちでは、真に道徳的な品性を完成させることはできないが、キリストの義を受け入れることはできる。わたしたちは神性にあずかる者となり、世にある欲のために滅びることを免れることができる。キリストはわたしたちが神のむすこ娘としてどうなるべきかという完全な模範を残されたのである。(手紙 256, 1906年8月1日「オーストラリアの牧しているわが兄弟たち」へ)

法廷におられるわたしの友なるイエス

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

わたしたちが〔ヨハネ 3:14-19〕のように非常に豊かで満ち満ちた約束を持つとき、……「わたしたちのうちだれか一人にでも不信仰の言い訳があるだろうか」とわたしは問う。あなたには、「わたしは主がわたしの祈りを聞いてくださると思わない。わたしは自分がクリスチャンであることを信じるのができたらよいのだが。そうでなければわたしが神の子であるという証拠を持つことができたらよいのに」と言えるようなどんな言い訳があるであろうか。感情は非常に移ろいやすいが、永遠の命の尊い言葉がここにある。

証拠は何であろうか。感情の高揚であろうか。あなたが神の子であるという証拠を与える心の感動であろうか。しかしここには永遠の命の尊い御言葉があり、わたしたちは、生ける信仰によって福音書の中でわたしたちの前におかれている希望をつかむことができるという保証を、その御言葉はわたしたちに与えている。

わたしたちは天の法廷におけるわたしたちの弁護人であるイエス・キリストに手を伸ばすことができる。わたしたちは法廷で友が必要である。わたしたちは罪を犯し続けてきて、不従順であって違反者であった。だから、御父にわたしたちの事情を訴えるために、わたしたちに友なるお方がおられることはわたしたちにとって最高に重大なことである。キリストは「わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」と言われる。さて、すべての人が引きよせられるであろうか。キリストは引きよせられるが、彼らはその引きよせに応じるであろうか。彼らは来るであろうか。黙示録の中にある招待はこれである。「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい」(黙示録 22:17)。

「きたりませ」と言うのは牧師だけではなく、その言葉を聞く人にも「きたりませ」と言わせなさい。そこであなたは要点をとらえて聞かなければならない。そうすればあなたがそのメッセージを聞くときにはそのメッセージを語りはじめ、「きたりませ」と言う。あなたにとって来るのがすべてである。あなたは自分が来ることができるのを悟るとき、その特権が非常に大きく、自分にはまったくその価値がないので、あなたはすべての人があなたと同じ特権を持つことを望むが、それはわたしたちが神の共労者であるためである。それがわたしたちの働きである。

神は「きたりませ」と言われ、御霊も「きたりませ」と言い、花嫁も「きたりませ」と言う。そしてこの言葉を聞くものは誰でも「きたりませ」と言う。ああ、一貫した信心深い生活と「きたりませ」と言う彼らの唇から出る言葉がもつとあるとよいのに。……天国は価値のあるものであり、キリスト教は奮闘して獲得する価値のあるものであることを、教訓だけでなく、実例によって、あなたは生きた模範を携えていくのである。(原稿 10, 1891年 8月 2日)

8月3日

真理の力

「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。」(イザヤ 58:6)

真理、尊い真理はその感化力によって聖化させる。聖霊の作用による魂の聖化は人性におけるキリストの性質を植え付けることである。それは品性に現されたわたしたちの主イエス・キリストの恵みであり、よい働きの中での活動的な実践に持ち込まれたキリストの恵みである。このようにして品性は義と真の聖潔において、キリストの形に似せてますます完全に変えられる。神の真理には広大な要求があり、よい働きを次から次へとつないで伸びていくのである。福音の真理は途切れてはいない。キリストの個人的な働きの中のように、クリスチャンの働きと経験全体を通じて伸びている金の糸のように、天の宝石を結合し一つ一本の紐に形作る。……

神の憐れみと愛が神の子らに表されていることを思いに刻みつけさせなさい。天と地を探りなさい。そのとき、くびきを折り、虐げられる者を解き放つためにあなたの同情と助けを必要としているその人に、憐れみをもってあらわされる真理ほど力強くあらわされる真理はない。このとき、その真理は生きられ、服従され、イエスのうちにあるがままの真理が教えられるのである。

非常に多くの真理が公言されているが、わたしたちの同胞を楽にさせるために実践される真理は天にまで届き、永遠をさしている大きな感化力のあるものである。この世にいるあらゆる魂は試されている。あらゆる人の経験、普通の人生の歴史は、その人がキリストのみ言葉とその働きを行なうものであるかどうかを間違えようのない言葉で語っている。神だけがご覧になる些細な事柄、たえず繰り返される膨大な数の小さな事柄がある。これらの事柄において真理の原則を行動に移すことは尊い報いをもたらす。偉大で重要なことはほとんどすべての人に認められているが、これらのことに、人生の些細なことだと思われる事柄を織り込み、それらを密接に一つのものとして結びつけることが、クリスチャンであると公言する人々によってなされることはまれである。宗教は公言があまりに多く、現実があまりに少ない。

神の真理は、わたしたちの実践によって多くの感化を及ぼさねばならないときに、同胞にほとんど感化を及ぼしていない。真理、尊い真理は人生におけるイエスであり、生きた、活動する原則である。(原稿 34, 1894年8月3日)

言葉は重要

「わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように。」(詩篇 19:14)

わたしたちはみなキリストの生涯とこのお方が与えられた教訓を研究する必要がある。それはわたしたちがお互いの関係の中でどのように振舞うかを知るためである。神の御霊の気分を落ち着かせる感化を大切に下さい。話す能力はもしも正しく用いられるなら、心のありあまる思いを口で語る非常に価値のあるタラントである。あなたは自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされることを覚えて下さい。思慮を欠いた言葉は、さもなければ存在しなかったはずの困難を作り出す。

わたしたちは神の子であり、未来の永遠の命のための準備をするためにこの世におかれている。不親切な思慮の足りない言葉を語ってはならない。あなたが家族関係の中に入るとき、慰め励ます親切で優しい言葉を話すよう気をつけなさい。自分以外だれも理解することのできない弱点に苦闘している家族の一員を助けるために非常に多くのことをなす親切な小さな行為を忘れないように下さい。

あくまでも自分自身の方法をとること、さして重要でない些細なことで譲りたくないこと、家庭にこのような苦さや憤りを持ち込むことは、割に合わない。人生はあまりに短く、悲しみに満ちている。わたしたちは痛みを感じ、誘惑されている心を傷つけるために割く時間はない。

一人一人が親切であって、他の人のことを考えるようにしましょう。決して日没まで怒ったままにしてはならない。魂を痛め、傷つける些細であるが、怒りっぽい問題を正さないで眠りについてはならない。……

あなたが無分別に考えたり話したりする誘惑に駆られるとき、あなたがいるところでひざまずき、あなたがイエスのうちに休息を見出すまで祈りなさい。このお方は絶対にあなたを置き去りにすることも見捨てることがない。あなたは自分の短気な言葉のゆえに、自分自身をさげすむかもしれないが、イエスはあなたを憐れむこと、またあなたがこのお方の命じることを行なうなら、あなたを体も魂も癒すことを覚えて下さい。ここにあなたのためのイエスのみ言葉がある。「彼にわたしの力をつかませなさい。そうすれば、彼はわたしと和解できる。彼にわたしと和解させよう」と仰せになる(イザヤ 27:5 英語訳)。

イエスはあなたの魂の中に天国の調和を作りたいと願っておられる。このお方のみ言葉を失望しながらではなく、確信と希望をもって読みなさい。神があなたに語りかける祝福の言葉に耳を傾けなさい。キリストと共に歩むというのは、目には見えないけれどもキリストがあなたと共に歩いておられることを信じることを意味している。(手紙 104, 1901年8月4日、E・K・ピーマンへ)

8月5日

キリストの義におおわれる

「律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。」(ピリピ 3:9)

汚れた衣を着て主のみ使いの前に立っているヨシユアはその宗教生活が誤っており、サタンの誘惑に打ち負かされていて、神の行為を受ける価値がない人々をあらわしている。今日人類は汚れた衣を着て、神の前に立っている。彼らの義はすべて「汚れた衣のようである」(イザヤ 64:6)。サタンは人類の弱さの証拠として彼らの不完全さを指摘しつつ、彼らに敵対して、自分の熟練した告発する力を用いる。彼は神の奉仕を行なっていると主張する人々の過ちを軽蔑して指摘する。彼らはサタンに欺かれていたのであり、サタンは彼らを滅ぼす許可を求める。

しかし彼らはキリストを信頼しており、キリストは彼らを見捨てられない。このお方は彼らの罪を取り去るために、そして彼らにご自分の義を着せるためにこの世に来られたのである。このお方は、ご自分の御名を信じる信仰によって、彼らは許しを受けることができ、キリストのような品性を完成させることができると宣言される。彼らはこのお方に自分の罪を告白しており、許しを求めている。そしてキリストは彼らのご自分を見て信じるがゆえに、彼らに神の子となる力を与えると宣言される。

彼らの品性は欠点があるが、自分自身の功績を信頼せず、自分の罪の言い訳をしないので、またキリストの功績によって許しを求めるので、主は彼らを受け入れサタンを譴責される。彼らご自分をへりくだらせ自分たちの罪を告白するので、主は敵の告発を聞くことを拒まれる。このお方は悔い改めた者を豊かに許された。そして彼らご自分を信じ、信頼し続けるなら、ご自身の贖う愛の働きを彼らのうちに前進し続けられる。

神の恵みによって自分たちの欠点を制御している人々は他の人々に力の源である方を指し示しつつ、打ち勝つ方法を教える。あらゆる改心した魂に、自分の周りの人々で、自分が立っている光の中で喜んでいない人々を助ける特権を与えられている。その人々はまた悔い改めた者にもたらされる喜びを知ることができる。「彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ 1:12)。彼らはまた神の光を担う者として世に自分たちの場所を占めることができる。(手紙 173, 1903年8月5日「わたしの親愛なる兄弟たち」へ)

神は謙遜を尊ばれる

「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、「わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかす。」(イザヤ 57:15)

キリストは最も低い者をお受け入れになり、交わられる。このお方が人をお受け入れになるのはその才能や雄弁によるのではなく、彼らのご自分のみ顔を求め、ご自分の助けを願うからである。このお方の御霊は心を動かし、すべての機能を精力的な活動へと目覚めさせる。これらの虚飾のない人々を、主は嵐にも暴風雨にも熱にも圧力にも耐える最も尊い材料だとお認めになる。神は人が見るようにとはご覧にならない。……

その心のうちに神の愛を持っている人々の中に真の誉れがある。主人なるお方のためになす働きにおいてわたしたちの目的は、このお方のみ名が罪人の改心によって栄光をお受けになることであるべきである。賞賛を得るために労する人々は神に是認されない。主はご自分の僕たちが違った動機によって働くことを期待される。

キリストに魂を勝ち取るために費やし、費やされる多くの人々がいる。偉大な任務に服し、彼らは主人のために働きに出て行く。御使たちの奉仕の下で、普通の人々が神の御霊に動かされ、大路や垣根にいる人々に警告する。自分たちの賜物に信頼をおかず、単純に、いつも神に信頼をおいて働く謙遜な人々は、自分たちの辛抱強い祈りが魂を十字架に導くときに、救い主の喜びにあずかるようになる。わたしたちは彼らに「前進しなさい、兄弟方よ。へりくだって真心から、あなたの最善を尽くしなさい。そうすれば神があなたと共に働いてくださる」と言うべきである。彼らは強められ、励まされ、そして、できる限り早く働きにふさわしい者となるべきである。それは彼らの努力が成功をもって報われるためである。彼らは目に見えない天の器たちと調和している。彼らは神と共に働く共労者である。そして彼らの兄弟たちは彼らに神の祝福を願い、彼らがキリストのみ名のうちに働くとき、彼らのために祈るべきである。このような働き人たちを妨げる権威を授けられている人は一人もいない。大いに敬意を払って彼らを待遇するべきである。だれ一人として彼らが地の荒野に福音の種を蒔(ま)くときに、彼らをけなすような言葉を一言も語るべきではない。

キリストはこれらのへりくだった働き人たちと共におられる。天の御使たちは彼らの自己犠牲的な努力において、彼らと共に協力する。聖霊の力によって、イエスは心を動かされる。神は罪人の改心において奇跡を働かれる。男女は教会の仲間を集められるようになる。(手紙 109, 1901年8月6日、J・O・ジョンストンへ)

8月7日

義務に対する識別力

「あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。」(黙示録 3:17)

惨めさ、すなわち自分は富んでいる、豊かになったと感じる人々の裸は、何から成り立っているのであろうか。それは、キリストの義の欠乏である。彼ら自身の義のうちに、彼らは汚れた衣をまとった者として表されている。自分たちがそうした状態にありながら、彼らは自らキリストの義をもって覆われているとうぬぼれているのである。これ以上の欺瞞があるであろうか。預言者によって表されているように、彼らは「これは主の神殿だ、わたしたちは主の神殿だ」と叫んでいながら(エレミヤ 7:4 参照)、その一方でその心は汚れた取引や不義の交易でいっぱいになっているかもしれないのである。

魂の宮の庭は、ねたみ、誇り、激情、邪推、辛らつき、そしてうわべだけの形式主義の巢窟であるかもしれない。キリストは、自分が真理の知識において自分は富んでいる、豊かになったと感じていながら、なお生活と品性に真理が欠乏し、その欠乏した状態に気づいていない自称キリストの民を嘆かわしい思いでご覧になっている。罪と不信のうちに、彼らはキリストの僕たちの警告と勧告を軽く考え、そしてキリストの大使たちをあざけりと侮辱をもって扱い、さらに彼らの譴責の言葉は根拠のない話だとみなされている。識別力はあたかも離れ去ったかのように見える。そして彼には、神が彼らに送られた光と自分たちの魂の敵から来た闇とを識別する力がないのである。……

イエスが去られるとき、このお方は人間に、多岐の分野にことごとく行き渡る働きをお委ねになった。そして、キリストに従う一人ひとりには、このお方のためになすべき何らかの働きがあるのである。すなわち彼が自分自身の主人に対して責任を負い、自分の指導者からの命令と指示を待つて、忠誠をもってなすことを期待されている働きがある。わたしたちは神より責任を受けた代理人であり、天の財産を投資していただいたのである。だからわたしたちはわたしたちを召してくださったお方の栄光だけに目を留めているべきである。わたしたちの側で、義務を忠実に実行し、自分に委ねられた能力の精一杯の度合いにしたがって、委任された仕事を果たすべきである。他のどんな人もわたしたちの代わりにこの働きをなすことはできない。わたしたちは神が授けてくださった知性を勤勉に使い、自分の働きにおいて進歩し、知識と能力を獲得することによって、自分たちの働きをなさなければならない。(ビュー・アード・ハルト 1894年8月7日)

星のように代々かぎりなく

「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになつて永遠にいたるでしょう。」(ダニエル 12:3)

わたしたちには、不信者に最も強力な方法で真理を提示するという厳粛な責任が負われている。わたしたちは真理から男女を追い立ててしまうようなやり方でそれを提示することがないように、どれほど注意深くあるべきであろうか。宗教教師たちは、大きな善もしくは大きな悪をなすことのできる立場に立っている。もしすべての人がいま自分に課されている責任に目覚め、そして自らを決して裁きの座におかず、他人を批判したり責めたりせず、ただ働きに出て、かつてなかったほど闇の中にいる人々に福音を宣布すると決心するならば、多くの魂が悪から義へと向かうようになる。

忠実な執事たちが必要とされている。神は働いていただくことを望むすべての者と共に働かれる。聖霊は多くの魂をキリストに導かれる。このお方との交わりによって、彼らは天の宮廷にふさわしい者とされる。神と共に働く共労者である人々は、魂を救うのに賢い者となる。彼らは偉大な教師から学び、そして彼らが助けようとしている人々に聖書の主題を提示するとき、キリストの恵みが彼らの心を満たし、そして神のみ言葉は彼らの前に表される。彼らが「かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい」という召しを発するとき、彼ら自身の渇きが癒される(黙示録 22:17)。

すべての人が今神に忠実になり、少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集める必要がある。このお方は勤勉で忠実な奉仕を求めておられる。節約が足りないようであってはならない。一元一元を注意深く蓄えるべきである。わたしたちはキリストが五つのパンと二匹の魚で五千人を養われた後で、弟子たちにお教えになった教訓を覚えていなければならない。すべての人が満足した後で、キリストは弟子たちに、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」と仰せになった(ヨハネ 6:12)。

わたしたちはキリストから真理を受け、そしてそれを人々に与えなければならない。不信仰とあらゆる種類の悪が急速に増加しているので、神の僕たちの熱心さと真剣さも比例して増加しなければならない。……もしわたしたちが神に自分の愛の奉仕をお捧げするのを差し控えるならば、わたしたちは警告しないままに罪人を放っておくことになる。(手紙 177, 1903年8月8日、エドソン・ホワイトへ)

8月9日

母の愛

「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまぬようなことがあろうか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。」
(イザヤ 49:15)

わたしはあなた [エドソン・ホワイト] が健康という祝福を享受していることを、やさしい天父に感謝している。この尊い恩恵を最大限に活用し、不注意になつたり、健康の法則を破つたりしてはならない。健康を保つことができるように、単純な生活を送りなさい。……

わが子よ、前進しなさい。そのとき、もしあなたが神を自分の頼みとし、あなたの力、また相談者とするなら、あなたは最終的に勝利するようになる。思いを低くして共に歩み、他人を自分自身よりも高く評価しなさい。そのとき、あなたがこの終わりの時代のための重要な働きを前進させ、このお方の事業において大いに役立つ、み手の中の器となるため十分な分別をもって行動することができる知恵を、神があなたに授けてくださるように。あなたの母が批判的であったり、厳しいと思つたりしてはならない。母はあなたがこの世の成功と、将来の不死の命を得ることができるようにとあなたに最も強い関心を持っているのである。

神はあなたを愛しておられる。このお方は「女がその乳のみ子を忘れ…… [る] ようなことがあろうか」とお尋ねになる (イザヤ 49:15)。あなたはおそらく、自分の夫と子供と共に、真冬のさなかにグリーン・マウンテンを渡ろうとした母親の悲しい物語を聞いたことがあるであろう。彼らは夜陰と嵐とで前に進むことができなくなった。夫は助けを求めて、闇と吹きすさぶ雪に道を見失い、なかなか戻らなかつた。母親は自分に死の冷たさが及ぶのを感じ、彼女は凍 (い) てつくような突風と降り続く雪に向かって自分の胸をはだけて、自分の残った命をすべて自分の子供を救うために与えようとした。朝が来て、母親のショールにくるまって赤ん坊が生きているのが発見された。その子は一生懸命ほほえんでみては、赤ん坊の愛らしいしぐさで母親の動かない凍りついた目の注意を引こうとしていたが、なぜ母親が眠りから覚めないのだろうかと思議に思っていた。

ここに母親の心を子供に結びつけた死よりも強い愛が見られる。しかしなお、神は、母親が自分の子供を忘れても、ご自分に信頼する魂を忘れないと仰せになるのである。主がわたしたちを愛しておられるということは、わたしたちの生涯の毎時間、わたしたちの最も深い感謝を呼び覚ますのに十分である。神の愛があなたに訴えている。注意を払いなさい。さもなければ、あなたはこのお方のみ言葉を自分に当てはめぬであろう。ただイエスの愛に信頼しなさい。そのときあなたは最も深い喜びを実感するようになる。(手紙 12, 1873年 8月 9日、エドソン、エマ・ホワイトへ)

サタンの詭弁

「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」(コリント第一 2:14)

一流の科学的な頭が、世の光であられるキリストを度外視して憶測することはすべて、麦に対するもみがらに比較されている。キリストはご自分と一つであることの科学を理解する者があまりにもわずかなのを悲しまれる。神の導きの下にない思いは、贖いの科学を理解することができない。信心の奥義は、自己をぬぎ捨てた信じる魂のうちにのみ見出される。幼子のように教えられやすい心を持つようになる者は、天の王国では最も偉大な者である。

ニコデモの知識と教育は、偉大で深いと思われていたが、キリストは彼にそれらは神には何の価値もないことをお示しになった。彼は再び生まれなければならない。彼は新しい考えを受け入れ、神こそすべての真の科学のうちにおられることを理解しなければならない。主は人が自分の最善を尽くすばかりではなく、学び、他人に教えることを期待しておられる。そのとき、彼は「わたしは自分が信じているお方を知っている。イエスは命のパンであられる。もしわたしがこのお方を食したのであれば、わたしは神のうちにキリストと一つとなる」と言うことができる。

神のみ働きのいかなる分野にでも携わるとき、わたしたちは聖なる火を用いなければならない。人間の才能と能力だと思われているものは清くない火であって、神によっては認められていない。永遠の真理の高い土台には、断固とした立場が維持されなければならない。キリストの隊列で働くすべての人が、言葉において、精神において、品性において、彼らのインマヌエルの誉れにおいて神の印を受ける時が来た。わが民のこれほど多くの人々が信仰と信心の奥義について迷ってきたが、彼らは「わたしはキリストがわが嗣業であることを知っています。このお方の憐れみ、このお方の優しさがわたしを大いなる者とされました」と宣布することによって、問題を解決できたはずであった。……

神の真理はこのお方を信じる民のうちで大いなるものとされてこなかった。なぜなら、彼らはそれを自分たちの個人的な経験に持ち込んでこなかったからである。彼らは世に一致し、そして自分の感化力を世に頼ってきた。彼らは世に改心させられるがままにし、清くない火を持ち込んで聖なる火に取って代わらせた。それは彼らが自分たちの働きの分野で、世の標準にあわせるためであった。世の習慣を真似るようなこうした努力があってはならない。これは清くない火であり、聖なる火ではない。生けるパンはあがめられるばかりでなく、食されなければならない。天から下ってきたパンは、魂に命を与える。(原稿 96, 1898年8月10日「わたしたちの嗣業、キリスト」)

8月11日

目に見えない神と共に歩む

「あなたは彼らを見前のひそかな所に隠して、人々のはかりごとを免れさせ」(詩篇 31:20)

神のみ言葉はあまりにもわずかしか実行されていないが、これだけが個人個人のあるいは国家の悲哀を癒す治療法である。人は街頭や市場で神に祈りを捧げるためにひざまずくことはできないが、次のことを決して忘れてはならない。あなたがどこにいたとしても、あなたが知恵を呼び求めることのできる神がおられるのである。……「わたしは、あなたのわざを知っている。見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである」(黙示録 3:8)。

エノクは目に見えない神と共に歩んだ。地上の最も忙しい場所で、彼の伴侶は彼と共におられた。単純さと愛のうちに真理を守るすべての人は、このことを心に留めていよう。最も多くなすべきことがある人々は、神をいつも目の前に見ている最も大きな必要がある。誘惑者が自分のほめめかしを彼らの思いに押しつけるとき、もし彼らが「主はこう言われる」を抱いているなら、彼らはいと高き者の秘かな仮屋に引き入れていただくことができる。このお方のみ約束が彼らの保護手段となる。あらゆる混乱と殺到する多忙さの中で、彼らは静かに憩う場所を見出すのである。

神をどこへでもあなたの行くところへお連れしなさい。すべての神のむすこ娘たちのために戸は開かれている。主はこのお方を求める魂から遠く離れておられるのではない。これほど多くの人々が誘惑の場所に自分の身をおいている理由は、彼らが主をいつも自分たちの前に定めておかないからである。神のことを最も考えない場所にこそ、あなたは命のともし火を携えていく必要がある。もし神が視野から外れたままにされているならば、もしわたしたちの信仰とわたしたちの神との交わりが途絶えるならば、魂は明らかに危険のうちにいるのである。誠実さは保たれなくなる。

主はわたしたちの助け主、わたしたちの防御であられる。神はご自分を信頼する魂が一人でも誘惑に打ち負かされることのないように備えをなされた。キリストはご自分を信じる人々にとって、彼らがどんな形であれ世と交わらざるを得ない場合も、彼らがこのお方に礼拝するためにこのお方の家で会う時とまったく同様の存在であられる。これらの言葉を考えて見なさい。「しかし、サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない」(黙示録 3:4, 5)。(原稿 97, 1898年8月11日、「神のすぐそばに共に歩む必要性」)

光を仰ぐ

「望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。」(ローマ 12:12)

神はわたしたちにあらゆる一つ一つの状況下でイエス・キリストと調和し、熱心な敬神を働かせなさいと要求しておられる。このお方の隊列で働くことを求めなさい。なぜなら、これが真の信心の実だからである。魂をイエスに勝ち取りなさい。

もしあなたが死別や、過去のこと、あなたの管轄外のこと、あなたが変わることも改めることもできないことを好きに嘆き悲しんでもよいと感じるならば、あなたは自分の行く道の真中に横たわっている現在の義務を怠っているのである。あなたの信仰の創始者であり完成者であられるイエスを眺めなさい。あなたの注意を憂鬱(ゆううつ)で悲しくさせる事柄からそらしなさい。なぜなら、あなたは敵の手中で、闇と暗黒を増幅させる手下となり、あなたの魂を取り囲む暗くて寄せ付けないような雰囲気を作り出すからである。厳しい苦難があなたに訪れるかもしれないが、見上げること、そしてイエスのうちに光を見ることがあなたの仕事である。……

もしあなたがもっぱら自分自身の悲しみや暗さを考え続けてそれにふけり、神があなたを厳しく取り扱っておられると考えているならば、あなたの宗教は上に引き上げるものではなく、押し下げるものである。あなたが他を排除して自分自身の悲しみのうちに閉じこもるなら、頑なにつぶやく闇の陰となる。

マックカルピン姉妹が出席していたが、彼女がこのようにしていた。

彼女は自分の息子を失ったが、彼は死ぬ準備をしていなかった。彼女は他の人々と集会で話した。ああ、彼女の心は大変重く、悲しかった。しかし彼女はホワイト姉妹の言葉によって慰められたと言った。わたしたちは良い、実りの多い集会を持ち、そのとき、この苦しんでいた姉妹はわたしに、数週間前に望みなく死んで、数週間前に葬られた自分のむすこと、彼女の感じた悲しみと悲嘆について語った。わたしは死者のために嘆くこと、心配しても益することのないことをやめるようにと懇願した。また、母親として、彼女は生きていた子供を賢明に、憐れみ深く顧みるべきであって、むなしい後悔に費やす時間は一瞬たりともないこと、かえって思いの腰に帯を締め、働きに出て行き、自分の子供たちをイエスに連れて行くよう努め、そして自分自身をキリストに明け渡し、恵みとキリストの知識に成長することができるようにしなければならぬのだと懇願した。キリストの隊列で働くことによって、彼女は決して冷たくなることなく、このお方のあらゆるご計画の中で、救い主と利害が一つになっていくのである。(原稿 83, 1893年 8月12日、日記)

8月13日

決して失望を口にしてはならない

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。」
(テサロニケ第一 5:16-18)

信仰は神をそのみ言葉通りに信じる。神の御子は天の住まいにあなたのため
の場所を備えておられる。これを感謝して言い表そう。あなたがいつも引き上げ
られていると感じないからといって、自分が神の子ではないと感じてはならない。
謙遜と熱心さをもって、神があなたに要求しておられる働きを断固としてしなさい。
あなたが周りにいる人々の祝福となる働きをなす一つ一つの機会を感謝しなさい。
あなたがいる場所を、神が是認し祝福できる場所とするために、自分の役割を
果たすと決心しなさい。

聖書を探求するために仲間と一つになりなさい。聖霊が、主のみ働きをどのよ
うにせよいか知るために主を求める人々を助けてくださる。あなたはクリスチ
ヤン品性の完全を自分のものにしようと努める一方で、どこにいても助ける人とな
りなさい。いつでも主を賛美しなさい。状況の暗い側ではなく、明るい側を見な
さい。よく見張り、よく祈りなさい。そうすれば主があなたを祝福し、導き、強
めてくださる。あなたが他人を祝福するためにどれほど多くのことができるかを見
てごらんください。

あなたは神の御目に尊い者である。神はあなたが謙遜の恵みと心の感謝を抱
いているようにと望んでおられる。教育を得るためのあらゆる機会を活用しな
さい。それはあなたが学んだことを他人に分け与えることができるためである。あ
なたの助けを必要としている人が多くある。聖霊は用いられる人々をみな用いてく
ださる。

真理はその性質として精錬するものである。真理と義があなたの生活に普及
するようにしなさい。そうすればあらゆる捜しは払いのけられる。わたしは主があ
なたを導き、あなたを強めてくださるようにと祈る。キリストの言葉を研究しなさい。
それらを実行しなさい。そうすればあなたは安全である。

あなたがみ言葉を研究し、真理の聖化があなたの生活を形づくるままにする
とき、主はあなたをご自分のために働く受け入れられる働き人とするのがおでき
になる。教会組織の中に共にいる人々はみな、主の働き人の軍隊の中にいるべき
である。しかし、品性の生来の特徴が征服されていないと、危機の時、強く希
望に満ちた言葉が必要とされているときに失望と絶望の言葉が語られ、教会に
深刻な重荷をもたらす。……たえずイエスを眺めなさい。このお方があなたの信
仰の創始者であり完成者であられる。神と共にへりくだって歩みなさい。そして
失望を語ってはならない。(手紙 246, 1908年8月13日、W・R・ストロザーへ)

ノアの時代とわたしたちの時代

「信仰によって、ノアはまだ見ていない事からについて御告げを受け、恐れかしくみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。」(ヘブル 11:7)

ノアの一貫した信仰と働きが結合し、世を譴責したのであった。彼はその時代にあった現代の真理を説いただけではなく、すべての説教を実践した。彼が警告のうちに自分の声を上げなかったとしても、彼の働きや、墮落した不信心な人々のただ中での彼の聖なる品性が、当時の不信で自墮落な人々を責める説教となったのである。彼は挑発的な侮辱や愚弄、あざけりの下でキリストのような忍耐と柔和のあるふるまいをした。彼の声はしばしば神のすべての戒めを行うことができるように神の力と助けを求める祈りのうちに聞かれた。これは不信の者たちを責める力であった。

しかし罪深い人類に対してノアの最後の嘆願がなされる時が来る。彼は人々になおもう一度警告のメッセージに注意を払い、箱舟の中に避け所を見出すようにと告げる。彼は同情に満ちた声で嘆願し、自分の手を広げる。彼は震える唇と涙でいっぱい目で、彼らに自分の働きが終わったことを告げる。しかし、ますます断固とした大きな荒々しいあざけりと嘲笑と侮辱が、ノアの上に積みあげられる。熱狂的で狂信的な気遣いだという言葉が彼の耳に届く。彼はすべての人々に別れを告げ、そして彼と彼の家族は箱舟に入り、神が戸を閉じられた。ノアを中に閉じ込めた戸は、世を外に閉め出した。それはノアの時代に閉じられた戸であった。そして主は彼を中に入れて閉じられた。その時まで、もしいにしえの世界の住民が神から自分たちに送られたメッセージを信じるならば、戸から入り逃れの場所を見出すことができるように、神はそこを開いておられた。しかし今や戸は閉められ、人間はそれをあけることができなかった。恩恵期間は終わったのである。

神の長い寛容は止んだ。神の帳簿にある数字は積み上げられ、不義な者のさかずきは満ちた。そのときあわれみは止み、正義が報復の剣を取った。……

ノアの時代に閉じられた戸があった。ソドムの滅亡のときに不信者に対して閉じられていたが、ロトのために開かれていた戸があった。信じなかった……ツロの住民に対して閉じられ、エルサレムの住民に対して閉じられた戸があった。しかし、へりくだり、信じる者、すなわち神に従う人々には開かれた戸があった。これは終わりの時代にも同様である。(原稿 17, 1885年 8月14日、「船上での瞑想」)

8月15日

神なる身代わり

「神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである。」(コリント第二 5:21)

「他人を救ったが、自分自身を救うことができない」(マルコ 15:31)。罪人に許し、もしくは神の恩寵の希望があるとすれば、それはキリストがご自分を救おうとなさらなかったからである。もし罪人の救いを引き受けられる際に、キリストが失敗したり、失望したりなさっていたら、すべてのアダムのむすこ娘たちの最後の望みは終結していたはずであった。キリストの全生涯は自己否定と自己犠牲の生涯であった。そして屈強なクリスチャンがこれほどまでに少ない理由は、自己否定と自己犠牲の代わりに彼らの自己放縦と自己満足があるゆえである。

ああ、キリストは失われた者を救うことに、どれほど魂の飢えと切望を感じておられたことであろう。十字架上につけられた体は、このお方の神性も、またこのお方の義を受け入れるすべての者を人性の犠牲を通して救うこのお方の神の力をも、損なうことはなかった。十字架上で死なれることによって、このお方は、ご自分を個人的な贖い主として信じる信仰を通して、罪を違反者からその神なる身代わりに移された。象徴において「紅のように赤」と表されている罪の世の罪は、神なる保証人に転化された。……

キリストがご自分を神の御子としてお認めになったゆえに神を憎む人々の憎しみと復讐に、人性が苦しんでいる間に、神性はその働きをしておられた。このお方だけが哀れな苦しむ泥棒にお答えになった。このお方だけが自由に罪深い犯罪者の保証債務を引き受けることがおできであった。死にかかっていた贖い主は、この泥棒がご自分を死刑に処した人々よりはるかに罪が少ないことを、神の御子の死を命じることに於いて積極的な役割を担った祭司や律法学者や役人よりも罪が少ないことをご覧になった。

十字架上で死にかかっていた泥棒には何という信仰があったことであろう。彼は一見彼が神の御子、世の贖い主であることは絶対にありえないと思われるときに、キリストを受け入れた。哀れな泥棒の祈りには、至る所で聞かれる祈りとは違った調べがある。それは信仰の調べであり、その祈りはキリストに届いた。死につつあった者のキリストを信じる信仰は、このお方の耳に美しい音楽のようであった。贖いと救いのうれしい調べがこのお方の死の苦悩のきなかで聞かれた。神はご自分の御子を通して栄光をお受けになった。(原稿 84 a, 1897年8月15日、「十字架上のキリスト」)

あなたは神の印を わがものと主張できるか

「わが民よ、わが律法を聞き、わが口の言葉に耳を傾けよ。」(詩篇 78:1 英語訳)

わたしたちには現代の真理の光をもっていない人々に伝えるべきメッセージがある。そして自分たちの働きにおいて、わたしたちは決して自分の信仰を否定することがあつてはならない。イスラエルの子らの歴史を研究することは、わたしたちが彼らの記録を損なった過ちを繰り返さないようにわたしたちを守る教訓を学ぶ助けとなる。主はこの民をその圧政的な王のくびきから、見事に救出され、自らその甚大な軍隊を引き受けられた。このお方は、昼は雲の柱によって、夜は火の柱によって、すなわちご自身のご臨在を取り囲んでいた雲によって彼らを導かれた。このお方は荒野で彼らに食べ物と水を備えられ、人は天使のパンを食べた。

……

イスラエルがシナイで野営を築いてからまもなく、モーセは神とお会いするために山に召された。彼は一人で険しく荒い道を登っていき、そしてエホバのご臨在の場所であることを示す雲に近づいた。イスラエルは今やいと高き神との緊密で特別な関係に入るのであった。国として、彼らは神の特別な統治の下に入るのであった。……

雷鳴と稲妻の中で、神は多大な群衆の聞こえる所でご自分の律法を語られた。神は律法をお授けになる機会をおそるべく荘厳な機会となされた。神は民がご自分の律法の高尚な性質を理解することを望まれた。民は、神の奉仕に関係することはすべて最大の敬神をもって尊重されるべきことを教えられなければならない。……

わたしたちに残されている時間は非常に短い。わたしたちはすべての利己的な放縦を捨てよう。なぜなら、これは肉体的に、精神的に、道徳的に力を弱め、人間が神のご要求の神聖さを真に知覚することができないようにさせるからである。……

あなたは生ける神の印を自分のものとして主張することができるであろうか。あなたは自分が真理によって聖化されていると主張することができるであろうか。わたしたちは民として、神の律法に優位性を与えるべきほどに与えてこなかった。わたしたちには安息日に自分自身の楽しみを行う危険がある。

わたしが書くようにと命じられてきた書物の中に、尊い教えが与えられてきた。どれほどの人々がこれらの書物を読み、研究してきたであろうか。神が与えてこられた光が無関心と不信をもって扱われているかもしれないが、この光はそれを受け入れ、従うことを選んでこなかったすべての人を有罪に定めるものである。(手紙 258, 1907年8月16日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

8月17日

幸福な精神を抱く

「わたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。」(コリント第一 4:9)

主はいつくしみ深いお方であり、大いに讃美されるべきである。わたしたちは声をあげてこのお方を讃美することを学び、またいつでもわたしたちがすばらしい交わりのうちにいること、すなわち神とその御子イエスとの交わりの中にいることを認識することを学ぼう。わたしたちは墮落していない諸世界に、御使たちに、そしてわたしたちの同胞である人々に見世物となっている。これを悟るとき、わたしたちは、主が指図されるとおりに堅固でよく守られた心をもって出て行くようにと導かれる。

わたしたちは見張りつつ祈ろう。これは、わたしたちが自分たちの神なる指導者キリストの支配下にいるべきことを悟ることができる助けとなる。このお方はわたしたちに目的の堅実さと、抑制されたキリストのような推進力、また健全な判断力を与えてくださり、わたしたちがまじめに、しかし親切に考えることができるようにする。わたしたちが自らを不幸にするにはまったく時間が短すぎる。わが親愛なる兄弟姉妹方、わたしたちは幸福な精神をいдаこう。なぜなら、わたしたちには自分たちを愛してくださる救い主がおられること、もしわたしたちがそのご臨在を自分たちの心に迎え入れるなら、わたしたちを祝福してくださるお方がおられることを知っているからである。

わたしたちは言葉のタラントを、だれの益ともならないような方法で用いることはできない。神のみ言葉はわたしたちの互いの感情と行動の源泉を統制し、心の状態は、内なる命の原則を統制する。純潔で混じりけのない原則が、正しい言葉と行動を促進する。わたしたちのタラントは増し加わらなければならず、そうでなければ減退してしまう。

わたしたちはキリストの小さな子供、このお方から学ぶ者とならなければならぬ。わたしたちは十分に自分たちの公言する真理一万物の終わりが近いことを信じ、実践しなければならない。一瞬一瞬、わたしたちは明らかにされたすばらしい出来事を証言する準備ができていなければならない。日ごとにわたしたちは自らの命を主の奉仕に再献身し、そして天来の客を招き入れ、このお方の愛を受け入れるために心の戸を開くべきである。

夜のうちに、わたしはわが救い主の愛をもつと悟ることができるようにと祈っていた。わたしは心のうちにこのお方の愛を失ったことはなかったが、それでもわたしは、自分について「あなたはキリストにあって完全である」と言われるようになるまで、その愛がますます増し加えられることを大いに望んだのである(コロサイ 2:10 英語訳)。

わたしたちはいつも快活な言葉を語り、自分たちの唇から一言でも怒りに満ちた言葉が出ないようにしよう。なぜなら、そのような言葉は、天の生命の雰囲気求めて苦闘している哀れな魂を傷つけるかもしれないからである。(手紙 185, 1903年8月17日、S・N・ヘスケル長老と夫人へ)

家庭で優しさを培う

「何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。」(ペテロ第一 4:8)

イエスの許へ来た若い青年が永遠の命を得るためには何をすべきかとたずねた。イエスは彼に律法を守るようにと仰せになり、律法の規則のいくつかを挙げられた。青年は、「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」と言った(マタイ 19:20)。はじめの四つの戒めは人間に神を最高に愛する義務を課し、残りの六つは隣人を自分自身のように愛するようにとの要求を提示している。いったいどれだけの人が、真に、誠実に、全いでこれを実行していることであろう。

主はまもなく来られる。そしてわたしたちは義から生じる義務を行っているであろうか。愛は信心の基礎である。自分の兄弟に対して無私の愛を持っていないければ、だれがどんなに公言していようと、彼は神に対する愛を持っていない。神がわたしたちをまず愛してくださったがゆえに神を愛するとき、わたしたちはキリストがそのために死なれたすべての人を愛するのである。わたしたちは、大いなる危険のうちに、また大いなる困窮のうちにある魂が警告されずに、労されることなく、また心をかけられることなく見過ごしにされるままにしておきたいと思わなくなる。わたしたちは誤っている人々を寄せつけずに、批判的で厳格になったり、あるいは彼らがさらなる不幸と失望に急落し、サタンの戦場に落ち込むままにしたりしようと思わなくなる。なぜなら、神はわたしたちの兄弟やまた主の家族のより若いメンバーを扱われるように、わたしたちをも扱ってくださるからである。

心の優しさを培いなさい。あなたの家庭生活の中で自らを愛の雰囲気の中で囲みなさい。しかし教会に大いに行き渡っている精神は神に対する侮辱である。好きかかって責め、落胆させ、失望させてきたすべての人、また誘惑され、試みられている人々に優しい親切や同情やあわれみを示さずにきたすべての人は、自分自身の経験において他人が通ってきた経験をするように導かれ、そして彼らの心のかたくなさに苦しむようになる。そして自分の同情の足りなきのゆえに他の人々が苦しんできたことを感じて、ついには自分の心のかたくなさに嫌気がさし、イエスに入ってきていただくように戸を開くようになる。

神の改心させる力は神の働きと運動に幾分でも携わっているすべての魂に及ばなければならない。それは各々がキリストの愛と同情に満たされるためである。さもなければ多くの人々は決して天国を見ることはできない。(原稿 62, 1894年8月18日、「家庭伝道の働き」)

8月19日

二心の危険

「そんな人間は、二心の者であって、そのすべての行動に安定がない。」(ヤコブ 1:8)

自分自身にも仕えることができるならば、キリストにも仕える人々が多くいる。しかし、これは不可能である。主はご自分の軍隊に臆病者はお受け入れにならない。ごまかすことはできない。キリストに従う人々はいつでもどのような方法でも要求されればこのお方に仕える用意ができていなければならない。神は心が誠実で、分別があり、用途の広い人だけをお受け入れになる。「わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである」とキリストは宣言なさる(マタイ 12:30)。

多くの人々は危機において中立であらうとする。しかし、彼らの目的はくじかれる。だれ一人として中立の立場を守ることはできない。こうしようと努力する人は、キリストの言葉を成就しているのである。すなわち、「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない」(マタイ 6:24)。自分たちのクリスチャン生涯を、半々にすることによって始める人々は、その意図が何であれ、ついには敵の側に連なるようになる。

二心の男女は、サタン最高の同盟者である。彼らが自分自身に対してどんなに好意的な意見を持っていたとしても、彼らは偽善者である。神と真理に忠実である人はすべて、それが正しいがゆえに、正しいことのために堅く立たなければならない。献身していない人々と共にくびきを負いながら、なお真理に忠実であらうとすることは、絶対に不可能である。わたしたちは自分自身に仕えている人々や世の計画に従って働いている人々と結合しながら、天の相談者との関係を失わずにいることはできない。わたしたちは敵のわなから助け出されるかもしれないが、打たれ、傷つけられて、わたしたちの経験は成長が妨げられる。「不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである」(ヤコブ 4:4)。

「自分の命を愛する者はそれを失う」(ヨハネ 12:25)。人が良心の盾を失うとき、彼は天の御使たちの協力を失っているのである。神は彼のうちに働いていない。他の霊が彼に自分の考えを吹き込んでいるのである。そして神の働きに対する背教者、裏切り者となることは、死よりもはるかに深刻なことである。それは永遠の命の損失を意味している。(原稿 87, 1897年8月19日、「キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者はみな迫害を受ける」)

自然を通して自然の神に

「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。」(創世記 1:31)

神は自然の中でわたしたちに語りかけておられる。自然界の美しさと豊かさを眺めているときに聞こえるのは、神のみ声である。わたしたちは、このお方のみ手が造られた美しいものにこのお方の栄光をながめる。わたしたちは覆いをはさまずに、このお方のわざを立ち止まって見る。神はわたしたちがご自分のみ手のわざを眺めることによって、ご自分から学ぶようにと、これらの事物を与えて下さった。

神はこれらの尊い事物をご自分の愛の表現としてわたしたちに与えて下さった。主は美を愛されるお方である。そして地上の親が自分の愛する子供たちのまえに美しいものをおこうとするように、神はわたしたちを喜ばせ、満足させるために、わたしたちの前に自然の美を広げてくださった。主はいつもわたしたちが幸せであるのをご覧になることを喜ばれる。すべてのものが不完全で罪深い、主はこの地上を有用で美しいもので飾られた。美しい小さな花々はこのお方の優しさと愛を語っている。それらには、わたしたちに与え主を思い起こさせるそれ自身の言葉がある。

わたしたちは自然を通して自然の神を見ることができ。その美しい気高い木々に、低木に、花々に、神はご自分のご品性を表しておられる。このお方は最も美しいゆりや、ばら、なでしこになぞらえられている。わたしは自然界に神の事物を眺めることを愛する。なぜなら、主はそれらにご自分のご品性を印されているからである。わたしたちを愛する愛のゆえに、このお方はそれらを与えて下さった。このお方はわたしたちがそれらを喜ぶようにと与えてくださったのである。であるから、わたしたちは自然の美しい事物を拝するのではなく、それらを通して自然の神を見るようにし、与え主を拝するように導かれるべきである。これらの美しい愛の奉仕者たちが神のご目的に答えて、わたしたちの心をこのお方に引き、このお方のご品性の美しきで満たし、そしてこのお方のいつくしみ深き、このお方の同情、このお方の筆舌に尽くしがたい愛をあがめさせるようにしよう。

神はいつくしみ深いお方であり、大いに讃美されるべきである。このお方の憐れみは、惜しみなくわたしたちに与えられてきた。このお方はわたしたちをご自分の愛の印で取り囲んでこられた。異教徒たちは怒り、むなしいことを想像するかもしれないが、主はお愛わりにならない。主はご自分の民のための安全な避難所となるべきとしえの丘の強さを創造なさった。このお方は圧迫され、迫害されるご自分の子らのために、山々や洞窟を備えられた。わたしたちは「神は試練のときのわれらの避け所、また力である」と歌うことができる。そびえたつ山々としえの丘を造られたお方、このお方をわたしたちは眺めることができる。(原稿 100, 1898年8月20日、「自然を通して、自然の神へ」)

8月21日

偉大な設計者に支配される

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ 24:14)

教会は組織された体として、キリストの十字架の影響力を広くひろめるために活動的に働かなければならない。遠近にいる人々に真理を伝えるために無私の働きをする人々は、天の宮で「神の同労者……神の畑であり、神の建物」として登録される。偉大な設計者によって支配され、彼らは人間がキリストのくびきを負い、このお方の柔和とへりくだりを学ぶときにどのようになれるかを示す。

キリストがご自分に従うと公言する人々を信頼することがおできにならないのは、彼らのうちあまりにも多くの人々が、一番になろうとするからである。彼らが謙遜で、このお方から喜んで教えられるのであれば、彼らは世に真理が人間の品性に及ぼす感化力を示す力となることができる。決して自己を高めることを求めず、キリストの隊列で働く人々は、伝道事業において継続的な活動と着実な進歩を表す。彼らは教会に教会が加えられるまで満足しない。

神はご自分の奉仕に携わっている人々が、かつて聖徒たちに伝えられた信仰のために熱心に戦うようにと期待しておられる。わたしたちの積極果敢な伝道の働きは、過去になされたよりもはるかに多くなされなければならない。新しい領域が加えられなければならない。真理の旗印が新しい地に立てられなければならない。教会がいくつも設立されなければならない。「行って、すべての国民に教えよ」という任務を全うするためになしうることはすべてなされなければならない(マタイ 28:19)。……

教会の命は、そのメンバーが囲いの外にいる人々に関心を示すかどうかにかかっている。神の教会はキリストが世を破滅から救うための犠牲として、ご自身を捧げられたことを覚えていよう。わたしたちのために、このお方は貧しくなられた。それはわたしたちがこのお方の貧しさを通して、永遠の富を所有するようになるためである。神が真理の知識をもって祝福された人々が、自分たちの計画において狭量になるのであろうか。彼らに自分たちの広大な義務を自覚させ、すべての利己心の糸を切り去らせなさい。それは、主が彼らにご自分の聖霊を注ぐことがおできになるためである。

主を見出すことができるうちに主を求め、このお方が近くにおられる間にごお方を呼び求めなさい。彼らには信仰をなくしたりつぶやいたりする理由はない。彼らにすべてのあら捜しとつぶやきをやめさせ、そして過去の恵みと祝福に対する感謝の念を奨励しなさい。このお方のみ言葉の光を心から感謝して主をほめ讃えさせなさい。(サイン・オブ・タイムズ 1901年8月21日)

あなたに対する神のご要求

「死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。」(ローマ 6:13)

もしあなたが神から愛され、聖天使たちの臨在を保ちたいと思うなら、あなたは従順な精神を持たなければならない。喜んで教えられ、導かれなさい。そして徳と聖潔の道に歩むことを求めなさい。

神にはあなたに対する要求がある。このお方はあなたを命と健康と能力、すなわち論理的に考える力をもって祝福なさった。これらはもしあなたが望むならば大いに発達させることもできるし、またこれらの力と思いの資質をサタンの支配に明け渡してしまうことによって乱用することもできる。あなたには神があなたに賜った能力に対して責任がある。あなたは自分の特権を最高に生かして、有用な義務の地位にふさわしい者となることができる。あなたは偉大な働きをしようと向上心に燃え、大きなことを求めて野心を持つ必要はない。そうではなく、あなたは自分の働きをすることができる。それは、小さいかもしれないが、あなたは神に受け入れられるように自分の働きをなす責任を感じて、それをなすことができる。そしてあなたがこの小さな働きをちゃんと正しくなすとき、神はもう少し大きな働きをあなたにお委ねになるのである。あなたがたどる道には非常な重要性が伴っている。神の御使たちはマリヤ [これ以外には特定されていない] がどのような品性を発達させているかを調べるために、彼女を見ていた。神は道徳的な価値を図っておられる。そして、天にはあなたの行動、あなたのすべての行いの記録が保存されており、あなたはやがてこの記録に直面することになる。

神は、もし神の子らをご自分に服するならば、すべての子らをお用いになることを覚えていなさい。このお方にはすべての人のために場所と働きがある。あなたもその一人であるが、神が自分をお用いになることはできないと考えている人が多い。これ以上そのように考えてはならない。あなたは神に栄光を帰すような方法でああなたの小さな働きをなすことができる。小川はそれが河でないからといって、その細い水路を通ることを拒んだりはしない。草は、堂々とした木々のような大きさが無いからといって成長するのを拒んだりはしない。星は自分が太陽ではないからといって輝くのを拒否したりはしない。ああ、そんなことはないのである。自然界のすべてのものには、その任じられた働きがあり、その立場につぶやいたりはしない。霊的な事柄にも、すべての男女には各人の特別な領域と仕事がある。神が要求しておられる利子は、キリストの賜物の測りに応じて委ねられた資本の額に比例している。……今は、……あなたを本当に道徳的価値のあるものとする品性の安定性を示すべき、あなたの時であり、特権である。キリストにはあなたの奉仕に対する権利がある。このお方に心から屈服しなさい。(手紙 30, 1875年 8月 22日、「親愛なるマリヤ姉妹」へ)

8月23日

誠実さの試金石

「そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。」(ヤコブ 1:22)

主はすべての魂に奉仕を要求しておられる。生きた神託(しんたく)が開かれた人々、真理を悟った人々、そして自ら、体も魂も霊も神にお捧げした人々は、救い主の「きょう、ぶどう園へ行って働いてくれ」という言葉が、必要条件ではあるが、強制的なものではないことを理解する(マタイ 21:28)。神のみ旨はみ言葉の中で知らされている。そしてキリストを信じる人々は、自分の信念通りに行動するのである。彼らはみ言葉を行う者である。

誠実さの試金石は言葉ではなく、行いのうちにある。キリストはだれにも「あなたは他の人々より多くものを言うであろうか」ではなく、「他の人々よりも多くなすであろうか」と仰せになる。このお方のみ言葉には深い意味が満ち満ちている。「もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである」(ヨハネ 13:17)。言葉はそれが誠実さと真実のうちに語られない限り、何の価値もない。言葉のタラントは、それらにしかるべき行いが伴うときに、効果があり、価値がある。神のみ言葉を聞き、それを行う者となることは、すべての魂にとって生死に関わるほど重要である。

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいつて行く者が多い」(マタイ 7:13)。……

この世には多くの欺瞞者たち、すなわち「ご主人様、参ります」と言いながら、行かない人々がいるという証拠がある。彼らは心地よい言葉を語り、美しい話をするかもしれない。しかし、彼らは欺く。彼らはその生活において彼らの言葉が神からのものでないことを表している。実生活が、品性の偽りのない指標である。わたしたちの言葉とわざによって、わたしたちは世に、御使たちに、そして人々に、わたしたちがキリストを個人的な救い主として信じているかどうかを表すのである。

善行が神の愛を買うのではない。しかし、それらはわたしたちがその愛を持っていることを表わす。もしわたしたちが自分の意志と方法を神に明け渡すならば、わたしたちは神の愛のために働くのではない。わたしたちが神の戒めに従うのは、それが正しいがゆえである。使徒ヨハネは「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである」と記した(ヨハネ第一 4:19)。真の霊的な命は、キリストのための奉仕をしているすべての魂のうちに表される。キリストに生きている人々は、このお方の聖霊の息吹を吹き込まれ、彼らはこのお方のぶどう畑で働かずにはいれない。彼らは神の働きをなす。すべての魂は、一貫した行動をとることができるように、よく祈り、考えよう。(原稿 120, 1899年8月23日、「きょう、ぶどう園へ行って働いてくれ」)

神の力をつかみなさい

「昔あなたは幻をもってあなたの聖徒に告げて言われました、『わたしは勇士に栄冠を授け』」（詩篇 89:19）

主はあなたを愛しておられる。主は優しい憐れみ深い方である。このお方の約束は、「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるのであろう」である（ヤコブ 4:8）。敵が洪水のように押し寄せてくるとき、主の御霊はあなたのために敵に対して、旗印を掲げられる。イエス・キリストがあなたの希望であることを思いにとどめておきなさい。いつでも、悲しい失望させるようなことがあなたに訪れるとき、キリストはあなたに「彼にわたしの力をつかませなさい。そうすれば、彼はわたしと和解できる。彼にわたしと和解させよう」と仰せになる（イザヤ 27:5 英語訳）。

あなたのすることは、永遠のみ座が堅固であるのと同じくらい堅固な力をつかむことである。神を信じなさい。このお方を信頼しなさい。あらゆる状況下で喜んでいなさい。試練があったとしても、キリストはご自分の嗣業のためにこれらの苦痛をお受けになったことを知りなさい。主にとってご自分の教会ほど愛しいものはない。主は心をご覧になり、だれかがご自分のものであるかをご存知である。主は生きているあらゆる魂をテストし、試される。「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう」（ダニエル 12:10）。……

神を愛し、このお方のみ言葉を行う人々は、人を責め、あらゆる捜しをし、つぶやく言葉を口にするよりは、讚美と感謝を歌いなさい。主は平和に役立つ人々を祝福される。……

主に信頼しなさい。感情や、言葉、あるいはだれか人の態度によって意気消沈してはならない。言葉にも行動にも、あなたを傷つける有利な立場を得るチャンスはだれにも与えることがないように気をつけなさい。イエスを仰ぎ続けなさい。このお方があなたの力である。イエスを眺めることによって、あなたはこのお方に似たすがたに変えられていく。このお方はあなたの顔色の健かさとなり、あなたの神となられる。……

教会はあなたを必要としている。そしてあなたはキリストのために自分自身の感情を和らげ、制する必要がある。キリストは、聖霊があなたに働くために、あなたが聖霊をいただくことを望んでおられる。そのときあなたは教会に命と慰めを与えることができる。あなたの言葉を厳選されたものとしなさい。そうすればあなたは本当に教会にとって祝福となることができる。あなたの魂を他人の矛盾のために悩ませてはならない。自らをよく治め、そして万事につけ首尾一貫した者となりなさい。（手紙 125, 1900年8月24日、オーストラリアの新しい信者、ヤコブ兄弟と姉妹へ）

8月25日

神の律法は不変

「義と公平はあなたのみくらの基、いつくしみと、まことはあなたの前に行きます。」
(詩篇 89:14)

現代における神の律法の違反者が、律法からできるだけ遠くに離れても不思議ではない。なぜなら律法は彼らを責めるからである。しかし十戒がキリストの十字架によって廃されたと思っている人々はユダヤ人が思っていたのと同じような欺きの中にいる。神の律法は厳格で耐えられないものであるという立場は、その聖なる教訓と調和して宇宙を統治しておられるお方を侮ることである。旧新約の両聖書を読むにあたって、この見解を取る人々の心におおいがかかっている。この律法が一番小さな点を犯すことの罰は死であるが、罪人の弁護人であるキリストがおられなければ、死はすぐさまあらゆる違反者に訪れたことであろう。正義と憐れみは混じりあっており、キリストと律法はすぐ横に並んでいる。律法は違反者を責め、キリストは罪人のために嘆願される。

キリストの初臨の際には、より大きな光と栄光の時代へと導かれた。しかしもっと満ち満ちた、もっと栄光に満ちた光が徐々にわかってきたがために、小さいほうの光を軽蔑しあざ笑うというのは、ほんとうに罪深い忘恩であった。ユダヤ人の時代の祝福と栄光を軽蔑する人々は福音伝道によって益を受ける準備ができていない。御父の栄光の輝きとこのお方の聖なる律法の卓越と完全は、このお方の愛する御子によってカルバリーでなされた贖いによってのみ理解される。しかし神の律法が拒まれるとき、贖いですらその意義を失う。

キリストの命は御父の律法の正当性をもっとも完全に徹底的に証明するものであり、このお方の死は律法の不変性を証明した。キリストは罪びとの罪を負うことによって、律法に従う義務から人を解放したのではなかった。なぜなら律法が変更できるものであり廃止することができるものであれば、キリストは苦しみを受け、死ぬためにこの世に来る必要はなかったのである。キリストが律法の違反のために死なれたというその事実が御父の律法が不変であるという性質を証明している。

ユダヤ人は神から離れさり、彼らの教えの中で、神の律法を彼らの伝統と取り替えた。キリストの命と教えはこの冒涇された律法の原則をはっきりと明確にした。天の軍勢は、キリストの任務の目的が御父の律法を高め、名誉あるものとし、その主張を正当化するものであることを理解した。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1887年8月25日)

心霊術に気をつけよ

「人々があなたがたにむかって『さえずるように、ささやくように語る巫子および魔術者に求めよ』という時、民は自分たちの神に求むべきではないか。生ける者のために死んだ者に求めるであろうか。」(イザヤ 8:19)

心霊術は欺きの傑作であり、サタンのもっとも成功した魅惑的な惑わしである。すなわち墓の中に自分の愛する人を横たえた人々の共感をしっかり得るために計算されたものである。悪天使たちが愛する者の姿で現れ、彼らの生活に関係のある出来事を話す。そして彼らが生きていたときに行なっていた行為を行なう。この方法で彼らは人々を、死んだ友人が天使であり、自分たちの上を飛び交って自分たちと連絡を取り合うのだと信じるよう導く。死んだ友人のように装ったこれらの悪天使たちはある偶像礼拝について注意を払い、多くの言葉を用いて自分たちの言葉の方が神のみ言葉よりもはるかに重みがあると言う。このようにして男女は真理を拒むよう導かれ「惑わす靈に氣をとられる」。

神のみ言葉は「生きている者は死ぬべき事を知っている。しかし死者は何事をも知らない、また、もはや報いを受けることもない。その記憶に残る事がらさえも、ついに忘れられる。その愛も、憎しみも、ねたみも、すでに消えうせて、彼らはもはや日の下に行われるすべての事に、永久にかかわることがない」ことをはっきりとした言葉で宣言している(伝道の書 9:5, 6)。この明確な聖書の言葉は心霊術の教えとまったく相反しており、この教えに聞き従うなら、魂を敵のわなから救う。

多くの人が単に好奇心から心霊術を研究する。彼らはそれを本当に信用しているわけではないが、霊媒になるという考えにぞっとして後ずさりをしたくなる。しかし彼らは禁じられた危険な領域に危険を冒して進んでいく。彼らが惑わす者の努力に執着するとき、自分が、欺く者の僕のうちでも、もっともみじめな奴隷にする者の権力下にあることがわかる。そして神の力以外の何者も彼らを救出することはできない。わたしたちにとって唯一の安全は神のみ言の教えを絶対に信頼し、それに忠実に従うことにある。聖書は破滅という落とし穴を避ける狭い道を示す唯一の図表である。……

神がご自分の民の邪悪さを負って、ご自分の御旨を行ない、罪を捨てることを願うあらゆる魂に助けを送られるとは何という愛、何と驚くべき愛であろうか。もし人が天の代理者とのみ協力をするなら、勝ち得て余りあるほど成功する。わたしたちのようにもっとも反抗的な犯罪者である墮落した被造物であっても、なおわたしたちは勝利者になることができるのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1889年 8月26日)

8月27日

世にいるが、世のものではない

「不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。」(ヤコブ4:4)

主の大きいなる日は間近い。キリストが天の雲に乗ってあらわれるとき、心からこのお方を捜し求めていなかった者、欺かれることを自分に許していたものは確実に滅びる。わたしたちの唯一の安全は、悔い改めと改心によって、罪が除去されることにある。今主の御前に心をへりくだらせ、自分の罪を捨てつつ主を熱心に求める人々は、真理による聖化を通して天の王家の人々と結合するのにふさわしくなり、王なるお方をその麗しさのうちに見るであろう。……

その人の教育の到達度がどうであろうと、神に対する自分の責務に気づいている人だけ、聖霊によって導かれている人だけが適切な教師となることができ、自分の感化力の範囲内に連れてこられる人々を神に勝ち取るのに成功する。神の勧告に聞きしたがわらない者が主の機関における指導者として認められるであろうか。神は禁じられる。不信仰の精神を表し、言葉と品性において真の信心を表さない人々をどうして信頼できる案内者とみなすことができるだろうか。

「よく聞きなさい。心をいれかえて〔主の方法を学ぶにあたって〕幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう」(マタイ18:3)。

自己はキリストのくびきに服従させられる必要がある。偉大な教師である方が御自分に学ぶようにとすべての者を招いておられる。……「人の子は、滅びる者を救うために来たのである。」(同11)。しかし救われたいと望む人々は自分が選ぶ方法ではなく、主が指定された方法で救われることに同意しなければならない。神の無償の恵みが人の唯一の希望である。神はわたしたち一人一人に誠実であられる。……

わたしたちは多くの者が悟っているよりもはるかに高い意味において、主の特別な民であるよう命じられている。世は悪の状態にあるので、神の民は世から出て世と分離しなければならない。彼らは世の慣習や習慣から離れなければならない。世の心情に一致しないで、自分たちのあらゆる奉仕に熱心な主の特別な民としてはっきりと際立っていなければならない。彼らは闇のわざとは何の親交も持つべきではないのである。(手紙280, 1906年8月27日、デンバーとボルダーの兄弟姉妹へ)

キリストの方法を模倣する

「イエスはこれを聞いて言われた、『丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである。』」(マルコ 2:17)

わたしたちの主であり御主人であるお方がされたように、人にそれほど注目すべき敬意を払われた教師はいない。このお方は「取税人や罪人の友」として知られていた。このお方は授けるためにこられたその祝福にすべての人があずかることができるために、社会のあらゆる階級の人々と交わられた。会堂の中で、市場でこのお方の姿が見られた。ご自分を招待するすべての人の家族をご自身のご臨在で喜ばせつつ、同郷の人々の社会生活を共にされた。しかしご自身が招かれないところに無理に行こうとは決してなされなかった。

このお方は信仰によって助けを求め、ご自分のところへ連れてこられる人のあらゆる種類の惨めさを取り除くのに積極的であられた。しかし、独立心と利己的な排他心が表され、自分たちの悲しみを表現することも、非常に必要とされている助けを求めることもしないところでは、みさかいなく癒しの力を授けることをされなかった。このお方は信仰をもってご自分のところにきたすべての者を救済する用意ができており、そうしたいと望んでおられた。悲しみはこのお方の臨在によって消えうせ、不当や圧迫はこのお方の譴責に縮み上がり、わたしたちの罪深い人類の残酷な略奪者である死はこのお方の命令に従った。

キリストが人々の間におられて以来、各時代にわたって、このお方の名を公言する傍ら隠遁の行動を追うパリサイ人のような目立つ行動を追う人々がいた。しかし彼らは自分たちの同胞を祝福しなかった。彼らはキリストの生涯の中でこの自己義認の頑迷さの言い訳を見出さなかった。なぜならこのお方の品性は温和で情け深かったからである。キリストは、地上のあらゆる修道士の命令から遠ざかられるのであった。なぜなら、彼らの規定した規則は常軌を逸していたからである。このお方の物惜しみしない憐れみに対してこのお方を非難しようとする常軌を逸した人々があらゆる教会と宗派にいる。……

神が御自分の真理をゆだねておられる人々は、偏見を持った人々に、その人々のいるところでどのように応じるかについての聖なるもつとも徹底的な知識を確保し、神の真理を受け入れることによって見出される光と慰めと平安を彼らに与えるのと同じく、自分自身が穏やかで神聖な平安を確保するために、世との交際を非常に律しなければならない。彼らはキリストの感動を与える、権威のある、社交的な生涯を模範としなければならない。このお方が持っておられたのとおなじ慈善心に富んだ心を養わなければならない、人々がいるその場所で彼らに会うことにおいて、同じ幅広い行動の計画を心に抱かなければならない。(手紙 2, 1878年 8月 28日、スイスの兄弟たちへ)

8月29日

クリスチャンの思慮分別

「それゆえ、このような時には賢い者は沈黙する、これは悪い時だからである。」
(アモス 5:13)

真理を信じる者は、何事をするにも祈りを込めて、用心を働かせなければならない。わたしたちの前には試練の場面があり、悪人どもがわたしたちの前にいる間、わたしたちの唇の戸を閉ざしつつ大いに用心する必要がある。わたしたちは自分たちの経験の中で、真理を憎む人々を譴責するのに狂信的に熱心な人々と会わねばならないであろう。だから静かな態度を保ち、わたしたちが知っているすべてのことをはっきり述べないことが必要であろう。なぜならサタンの影響下にある印象は人の思いで大きくなるからである。

祈りつつ見張る必要がある。わたしたちが出会う悪は長いあいだ集結しており、多くの人がほとんど予期していないときに、それは嵐のようにやってくる。彼らがその悪をもたらすことを責められる前に、突然その悪を引き起こす。信者が否定できないような責任を負わされるであろう。なぜなら彼らは筆によっても声によっても知恵を示していなかったからである。

多くの法律は諸国民の政府のために制定されており、圧迫するために意図されている。そして実際に何の効力もなかった古い法律が復活するであろう。わたしたちは自分の働きを理解し、イエス・キリストの賢明な指導のもとに、信仰をもって前進する必要がある。わたしたちの世界にあわれみの最後のメッセージを宣布するにあたって、ご主人であるお方のために大いなる働きがなされねばならない。そしてわたしたちは世界の果てから果てまで伝えるために当局に頼っている。そしてわたしたちがこの権威に頼っているかぎり彼らから自分を切り離してはならない。なぜならこれは世界的なメッセージだからである。

わたしたちは静かに前進しなければならない。そしてわたしたちの道が見たところ一方向でふさがっていればその権力を非難すべきではない。なぜなら、そうすることによって他の権力に、わたしたちの道を束縛するためにどのように働くべきかを教えているからである。わたしたちは反対勢力を刺激すべきではない。さもないと報復や復讐を引き起こすからである。最高のクライマックスがまもなくやってくる。それはすでに、盗人が夜やって来るように来ている。そしてわたしたちは働きに反する影響力を与えない聖書の真理を話すことができる。(原稿 90, 1893年8月29日、「存在する権力」へのわたしたちの態度)

本物の聖化

「それから、みんなの者に言われた、だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(ルカ 9:23)

月曜の朝の会は幕屋の下で五時半に始まった。わたしは衣服と財産の消費における節約の必要について約 30 分話した。主の金銭について向こう見ずで不注意になる危険性がある。幕屋集会の働きに携わっている若い牧師たちは注意して多額の費用がかさむことのないようにすべきである。幕屋集会が新しい分野に入って行き、伝道の働きが拡大するにつれて働きに必要なものは多い。出し惜しみということではなく最も厳格な節約がこの事柄に関してなされるべきである。

.....

わたしたちの朝の会は幕屋でなされた。わたしは、本物の聖化は日々自己に死ぬことと神のみ旨への日毎の一致以外のなにもでもないことを再び約 30 分話した。パウロの聖化は自己との日毎の戦いであった。彼は「わたしは日々死んでいる」と言った(コリント第一 5:31)。彼の意志と願望は日毎に義務と神の意志に衝突した。性向には従わないという計画の中で、彼は自分の性質にとって好ましくなく、十字架にかけるものであっても、神のみ旨を行なった。現代世の多くの人が神にささげた生涯で大きく向上しない理由は、自分の意志をまさに神が意図しておられることであると解釈するからである。彼らは自分が望むとおりのことをし、自分は神のみ旨に一致していると都合よく思い込む。彼らはあらゆることに自己を喜ばせ自己と戦うことをしない。

多くの人が最初は快樂と安楽を求める利己的な欲望に対してよく戦う。彼らはまじめで熱心である。しかし日々死ぬことにおける長引く努力に疲れて、サタンの誘惑に抵抗することによる止むことのない混乱、魅力的な怠惰、あまりに自己嫌悪をおこさせる死に疲れを覚えてきて、彼らは眠たげな目を閉じ、誘惑に抵抗する代わりにそれに陥る。流行を追う罪、人生の誇りはそれほど嫌悪感をもよおすものに思われない。

世に一致する人々にとって神の御言のなかに妥協はない。神の御子はすべての人をご自身に引き寄せることができることを明らかにされたが、このお方は世を寝かしつけ、平和をもたらすために来られたのではなく、剣を遣わずために来られたのである。キリストに従う者はこのお方の栄光に輝く模範という光の中を歩まなければならない。そして安逸や利己的な怠惰は何であつても犠牲にし、労力や苦しみをどれほど要してもたえず自己と戦い、福音の標準を高めなくてはならない。(手紙四 9 a, 1878 年 8 月 30 日)

8月31日

靈的な成長の奥義

「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ 4:13)

もしもキリストに従う者が知恵を求める熱心な探求者でありさえすれば、全面的には知らされていないでも真理の豊かな分野に導かれたであろうに。モーセがなしたように自分をまったく神にささげる人は、イスラエルの偉大な指導者と同じように、たしかに神の御手によって導かれるであろう。彼は身分が低く、見たところ才能に恵まれていないかもしれない。しかし愛情に満ちた信頼する心で、神のみ旨のあらゆる暗示に従うなら、彼の力は精錬され、気高くされ、元気付けられ、彼の能力は増す。彼が神の知恵についての学びを大切に心に刻みつけるとき、聖なる任務がゆだねられ、この人は自分の人生を、神に誉れを帰し、世に対する祝福とすることができる。……

今日多くの人はエペソの信者と同じように、心に働きかける聖霊の働きについて無知である(使徒行伝 19:1-6 参照)。しかし真理でないものは神のみ言葉の中でもっとはつきりと教えられている。預言者と使徒たちはこの主題をよくよく考えた。キリストご自身が、靈的生命を支えるにあたっての聖霊の働きを描写するのに、わたしたちの注意を植物界の成長に向けられる。根から上がってくるぶどうの樹液は成長を支え、花や実を結びつつ、枝々に広がっていく。そのように救い主から発している命を与える聖霊の力は、魂に浸透し、動機や愛情を新たにし、受け手に聖なる行為という尊い実を結ぶことを可能にしつつ、その思想すら神のみ旨に従わせる。

この靈的な生命の創始者は目に見えない。そしてその生命が分け与えられ、支えられている実際の秩序は、説明するには人間の哲学の力を超えている。それでもなお御霊の働きは常に書かれた御言と調和している。自然界でそうであるように靈的な世界もそうである。自然の法則は神の力によって一瞬一瞬保護されている。しかしながらそれは直接の奇跡によって支えられているのではなく、わたしたちの手の届く範囲に置かれている祝福を用いることによってである。そのように靈的な生命はみ摂理が供給している手段を用いることによって支えられる。もしキリストに従う者が「全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至」りたいのであれば、彼は命のパンを食べ、救いの水を飲まなければならない(エペソ 4:13)。(レビュー・アンド・ヘルド 1911年8月31日)

研究 8

清めの特別な働き



2. 大贖罪の日における大祭司の立場と働き

神の律法を知らない人のための調査審判

先月、わたしたちはご自分の聖徒たちのために始められた調査審判について学びました。それは王の婚宴にあずかるための審判であり、婚宴に招かれたすべての人のためには、礼服、すなわちキリストの義が準備されていました。キリストがご自分の命をもって備えて下さったこの礼服を「着ていることが認められたすべてのものは、神に受け入れられ、御国に入って神の御座の下に座るに足るものとみなされるのである。品性を調査し、だれが神の国にはいる準備をしたかを決定するこの働きが、調査審判の働きであり、天の聖所における最後の働きなのである」(各時代の大争闘下巻 145)。

それでは、審判、すなわち裁判に共通している手続きを見てみましょう。

裁判の一般的な手続き

「時に主は大祭司ヨシュアが、主の使の前に立ち、サタンがその右に立って、これを訴えているのをわたしに示された」(ゼカリヤ 3:1)。

ここに、大祭司ヨシュア、主の使、サタンが裁判の場面にいることが記されていますが、裁判は起訴から始まります。

1. 起訴
2. 調査 (品性)
3. 証人の証言 (もしあれば)
4. 仲保 (弁護)
4. 判決
5. 執行

ここでいくつか考察したい点があります。

- 裁判は死よりも厳粛です。なぜなら、死が復活までの分離であるのに対し、審判は永遠に分離させるからです。
- 公正にして合法的な判決は、目撃者がいる場合その証なくして下すことができません。
- 死後の感化さえも加味されます。「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている」とある通りです(ヘブル 11:4)。次の例を見てみましょう。

トマス・ペイン (初代文集 427, 428)

ボルテール (各時代の大争闘下巻 360, 368)

彼らは死後も、その感化力をもって神に反逆しました。

これらの人々に対し、逆に、イエスにあつて眠ったのちも、その感化によって神に栄光を帰し、多くの魂をキリストに勝ち取った人々がいます。

アベル (ヘブル 11:4)

マリヤ「よく聞きなさい。全世界のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この女のした事も記念として語られるであろう」(マタイ 26:13)

ウィクリフ (各時代の大争闘上巻 94-96, 99-104、その他)

ここにも神のご品性の法則が現れています。

「わたしを憎むものは、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう」(出エジプト記 20:5, 6)。

- 死は罪を終結させることも、取り消すこともできません。また、問題を解決するこ

ともできません。アダムの例を見てみましょう。

「アダムは、エバが神の命令にそむ(い) ……たことを知った。……彼は、彼女と運命を共にする決心をした。彼女が死ななければならないならば、彼もいつしよに死のうと思った」(人類のあけぼの上巻 44, 45)。

裁きの基準は神の律法であり、神の律法との調和以外に、認められるものはないのです。裁きの厳粛さは、言葉ではなく現実です。死よりも厳粛であるこの現実の下にあることを、わたしたちはどれくらい自覚しているでしょうか。

一方、神の律法やキリストのみ名を聞いたことがない人々については、どうでしょうか。彼らに機会はないのでしょうか。

親切の精神を抱いてきた人々(ラハブやルツ)

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、……すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け」(マタイ 25:31, 32)。

すべての国民を二種類にわけるとあります。そして、羊として分けられる人々の中には、神学についてはほとんど聞いたことがない人々もいます。

「さばきのときに、キリストからほめられる者たちは、神学についてはほとんど知っていなかったかも知れないが、彼らはキリストの原則を心に宿していた。……彼らは宣教師たちと親しくなり、自分自身の生命の危険をおかしてまで宣教師たちに奉仕した。異教徒の中には、知らないで真の神を礼拝している人たち、すなわち人を通して光を与えられたことのない人たちがいるが、それでも彼らは滅びないのである。彼らは書かれた神の律法については無知であるが、自然を通して語りかける神のみ声を聞き、律法に要求されていることを実行した。彼らのわざは聖霊が彼らの心に触れた証拠であって、彼らは神の子らとして認められる」(各時代の希望下巻 108, 109)。

旧約時代の異邦人の中には、神の民の中に入った人々がいます。その理由を見てみましょう。まず、神の民がカナン之地に入るときに助けたラハブです。敵国を探るために、送られた斥候たちは異邦人の中にいながら、神に心を動かされた一人の女を見出しました。

「彼らは行って、名をラハブという遊女の家にはいり、そこに泊まった」とあります(ヨシユア 2:1)。ヨシユア 2 章にはラハブが神の民に示した親切の詳細が記されています。それは命をかけたものでした。そしてそれは主に報われたのです。

「ただし遊女ラハブ……は……生かしておかなければならない。われわれが送った使者たちをかくまったからである」(ヨシユア 6:17, 25)。

また、士師の時代のルツの例を見てみましょう。

「しかしルツは言った、『あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れてなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください。』」(ルツ 1:16, 17)。

「異教主義に閉ざされたところで、聖書に示された神の律法も知らず、キリストの名も聞いたことのない人びとが、自分たちの命の危険をも顧みないで、神の使者たちを親切に扱い、保護したことがある。彼らの行動は、神の力の働いたことを示している。聖霊が未開地の人びとの心にキリストの恵みを植えつけ、彼らの性質や教育とは全く反対の同情心と呼び起こしたのである。『すべての人を照すまことの光があつて、世にきた』とあるが、この光が彼の心を照らした(ヨハネ 1:9)。もし彼が、この光に従って行くならば、それは、彼の足を神の国まで導くことであろう」(キリストの実物教訓 363)

「神の民に親切にするわたしたちの行動の一つ一つは、神ご自身になされたものとして報いられるようになる。

最後の清算の日に、キリストは人々の前にご自分が彼らの贖いのために命をお与えになつたことによつてなされた大いなるみわざを示されたい。このお方は彼らの前に、彼らのご自分のためになしてきた忠実な働きを提示されるのである。これはなんという驚くべき愛であろう!……聖霊が野蛮人の心の中にキリストの霊を植えつけられ、そして彼が神の僕たちに親切にするとき、心の同情の目覚めは、彼の性質に反するものであり、彼の教育に反するものである……キリストが野蛮人の心の中にキリストの恵みを植えつけられ、真理と命のみ言葉を聞き、理解する前からでさえ、彼は宣教者の必要に奉仕するのである。神の僕を害そうと取り囲んでいる群衆を見よ!しかし、主はおそらくはひとりの人の心と思いに働きかけ、ご自分の僕のために嘆願させられるのである。そして戦闘会議でクリスチャンの命を奪うことが決定されるとき、野蛮人のとりなしが決断を覆し、彼の命が救われ

るのである。ああ、この一つの行為のために野蛮人の心に向かって出ていった愛よ！このように人々にキリストは裁きにおいて次のように言われる、『あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれた』『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。』（神のむすこ娘たち 364 ）（各時代の希望下巻 107-114「70 章『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者』参照）

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』（マタイ 25:31-40）。

婚宴にあずかることができるように、神の力はすべての人の心に働きかけています。その働きに「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして」答えた人々が、救いから漏れることはありません。

「諸国民や異教徒の中のへりくだる者たちは、救い主の口から、『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』ということばを聞いて、どんなに驚き、よろこぶことだろう（マタイ 25:40）。限りない愛であられる主の心は、主に従う者たちがその嘉納のことばを聞いて驚きとよろこびの思いで見上げるとき、どんなにかよろこばれることだろう」（各時代の希望下巻 109）。

MEMO



(48 ページの続き)

に親切になさいます。

そのようにお互いを取り扱うようにと、このお方はわたしたちにお教えになりました。このお方は「互いに情け深く、あわれみ深いものとなり、神がキリストにあってゆるして下さったように、あなたがたも互いにゆるし合いなさい」と言われました(エペソ 4:32)。

「心の清い人たちは、さいわいである」(マタイ 5:8)。神さまは、わたしたちが自分を何者だと言うかよりも、実際にどういう者であるかをもっと考慮(ごうりょ) なさいます。このお方はわたしたちがどのくらい美しく見えるかは気になさいませんが、わたしたちの心が純潔であることを望んでおられます。そのとき、わたしたちの言葉、行動すべては正しくなります。

ダビデ王は「神よ、わたしのために清い心をつくり」「わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしの口の言葉と、心の思いとがあなたの前に喜ばれますように」と祈りました(詩編 51:10, 19:14)。これがわたしたちの祈りとなるべきです。

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである」(マタイ 5:9)。柔和(にゆうわ) で謙遜(けんそん) なキリストの精神を持っている者は平和をつくり出す人になります。このような精神はけんかを引き起こしたり、怒った答えてやり返したりしません。それは家庭を幸せにし、周りのすべての人を祝福するこちよい平和をもたらすのです。

「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである」(マタイ 5:10)。キリストはご自分ためにこのお方の弟子たちの多くは牢獄(ろうごく) に入れられるようになること、また多くの人殺されることになるのをご存じでした。しかし、このお方は彼らにこのために悲しんではならないとお語りになりました。

何もキリストを愛し、従う者に害をくわえることはできません。このお方はどんな場所にも彼らと共にいてくださいます。彼らは殺されるかもしれませんが、このお方は彼らに決して終わることのない命と、決してうすれることのない栄光の冠を与えてくださるのです。

そしてほかの人は、彼らから親愛なる救い主について学ぶでしょう。キリストはこのお方の弟子たちに言われました、

「あなたがたは、世の光である」(マタイ 5:14)。イエスさまはまもなくこの世からはなれ、ご自分の天の家に行こうとしておられました。しかし弟子たちはこのお方の愛を人々に教えるのでした。彼らは人々の間で光となるのでした。

冷やし中華風サラダ

■材料

サラダこんにゃく麺	1袋
きゅうり	1本
生わかめ	1/2カップ
ミニトマト	10個
油揚げ(千切り)	1枚
はちみつ	小さじ1
しょう油	大さじ1
粉末昆布だし	小さじ1/2

【サラダドレッシング】

レモン汁	1個分
粗糖	大さじ1
塩	小さじ1/2
しょう油	大さじ3
昆布粉末だし	小さじ1/2
ごま油	適量

■作り方

1. サラダこんにゃく麺を水にさらして、水切りをします。
2. サラダドレッシングの材料をすべてビンに入れてよく混ぜます。
3. 油揚げを油抜きし、フライパンに入れ、粉末昆布だし、はちみつ、しょう油で味をつけて炒めます。
4. サラダこんにゃく麺を器に入れて、その上に野菜カッターで千切りにしたきゅうりをのせます。
5. 生わかめを一口大に切ってのせます。
6. ミニトマトを半分に切って、のせます。
7. 油揚げものをのせます。
8. 盛り付けしたら、ドレッシングをかけて、食べる前によく混ぜます。

最近、見かけるようになったサラダ用こんにゃく麺を使用したメニューですが、おそばでも代用できます。しそやのりをトッピングしてもおいしいです。軽い仕上がりにするためには、油揚げは省きます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



第18話 キリストの教え(II)

「義(ぎ)に飢(う)え渴(かわ) いている人たちは、さいわいである」。義とは、正しいことを行うことです。それは神さまの律法への従順です。なぜなら、その律法の中に義の原則(げんそく)が説明されているからです。聖書は「あなたのすべての戒めは正しいので…す(義です)」とのべています(詩篇 119:172)。

この律法に従うよう、キリストはご自分の模範によって人々にお教えになりました。律法の義が、このお方の生活の中に見られました。わたしたちが自分の考え、言葉、行動がすべて、キリストのようになることを願うとき、わたしたちは義に飢え渴きます。

そして、わたしたちが本当になりたいと願うならば、キリストのようになることができるのです。わたしたちの生活がこのお方のような生活になり、自分たちの行動は神さまの律法に調和するものとなることができます。聖霊がわたしたちの心の中に神さまの愛を入れて下さるので、わたしたちはこのお方のみむねを行うことを喜ぶようになります。

神さまは親が自分の子供に良いものを与えるよりももっと喜んでご自分の霊をわたしたちに与えようと望んでおられます。このお方の約束は「求めよ、そうすれば与えられるであろう」です(ルカ 11:9, マタイ 7:7)。すべて義に飢えかわく者は「飽(あ)き足りるようになるであろう」。

「あわれみ深い人たちは、さいわいである」(マタイ 5:7)。あわれみ深く



あるとは、ほかの人に対して、その人が当然受けるべき取り扱いよりもっとよい取り扱いをすることで。つまり、神さまがわたしたちを取り扱ってくださったようにです。このお方はあわれみを示されることを喜ばれます。このお方は感謝しない人や悪人

(45 ページに続く)